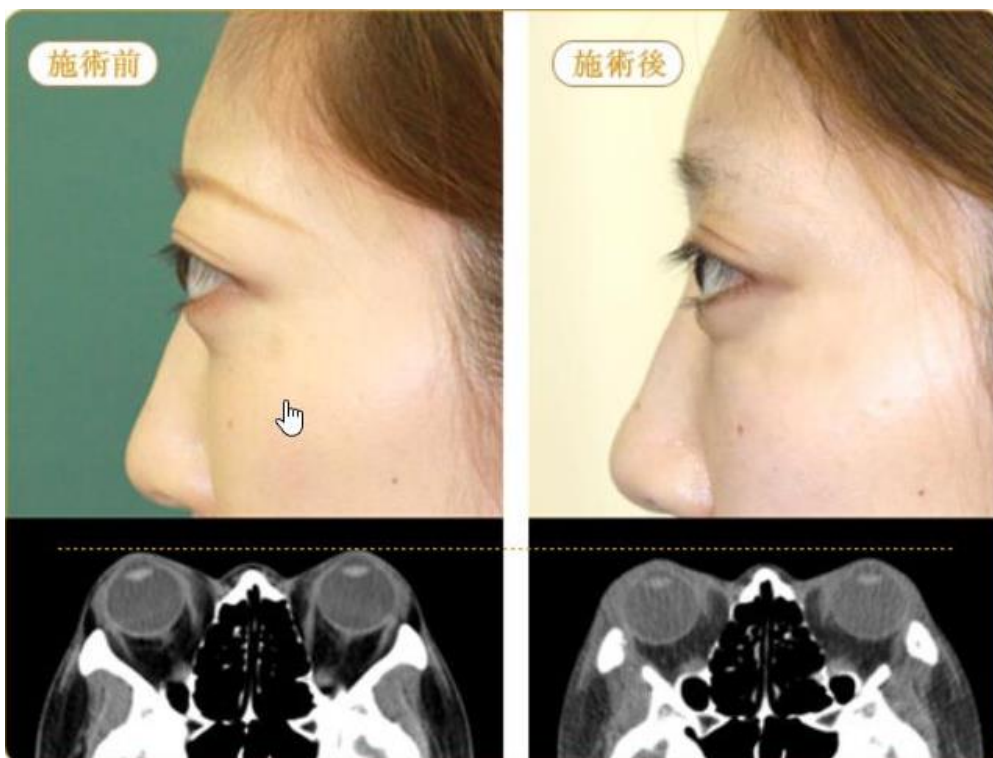


バセドウ病の合併症 その1

1 バセドウ病眼症

A)バセドウ病の症状と眼の症状は必ずしも平行しません。

バセドウ病眼症の症状としては、目が飛び出たり、物が二重に見えたり、涙が出たり、充血したり、ひどくなると失明したりします。

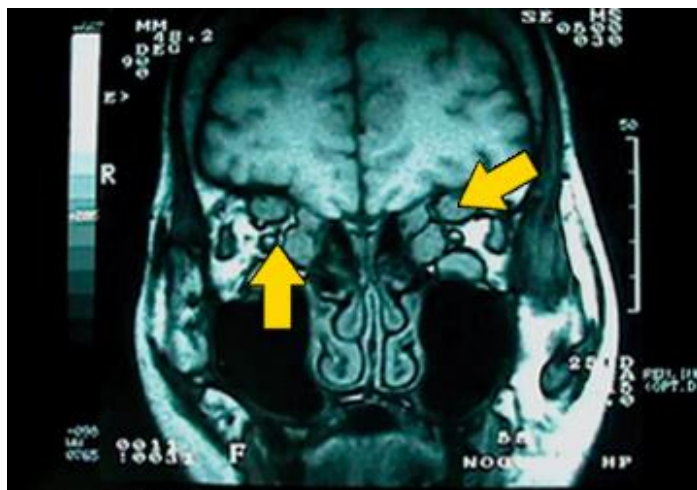


バセドウ病になると目が飛び出ると言われていますが、目が出ていない人の方がずっと多いようです。

眼の症状はバセドウ病がよくなっても、反対に悪くなったりすることもあり、バセドウ病とは切り離して別物と考えています。

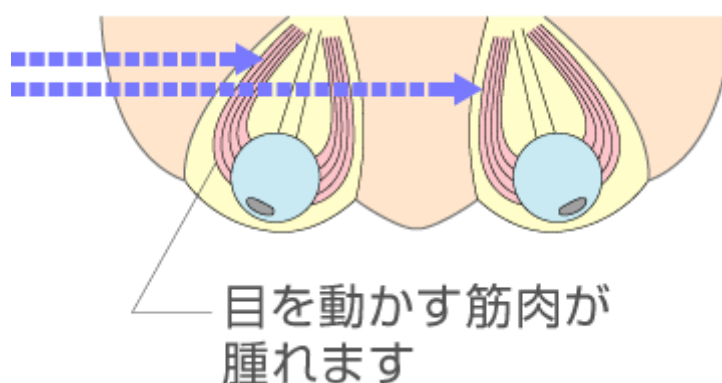
B)眼を動かす筋肉が腫れるために眼の症状がでます。

眼を動かす筋肉は主に4本あります。この目の筋肉が腫れるのが、バセドウ病眼症の特徴です。目の入っている入れ物は骨でできており、内容物が増えたとき（すなわち筋肉が腫れた時）、行き場がなくなり前に出てきます。そのために目が出るわけです。目の筋肉が太くなると、目玉が動きにくくなり、物が二重に見えたりします。若い人では、目のうしろの脂肪が増えて、目が出る人もいます。下記は、バセドウ病眼症のMRI 所見です。



C)最近、バセドウ病眼症に対する検査法と治療法が進歩しました。

今は MRI という磁石を使った機械で目の中が見れるようになりました。CT では目を動かす筋肉の腫れしか分かりませんでした。MRI ではそれに加えて筋肉の炎症（水膨れ状態）が有るか無いかまでわかります。



筋肉の炎症があれば、薬（副腎皮質ホルモン）や放射線治療（眼の後の筋肉に放射線を当てます）がよく効きます。

反対に筋肉の炎症がなければ治療をしても効果を期待できません。

薬や放射線が効かないときは眼科的に手術をする場合があります。

D)眼の症状は自然に良くなることが多いので、あまり心配しないでください。

バセドウ病眼症は数年して自然に良くなることもありますので、あまり落胆せず気長に考える方がよいと思います。